厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）

分担研究報告書

小児歯科・口腔医学からの難病対策

岡 暁子　福岡歯科大学　教授

【研究要旨】

希少難治性慢性消化器疾患に罹患している患者に対する小児歯科・口腔医学からの難病対策を考える上で、対象患者の歯・口腔粘膜・咬合を含めた口腔実態の特徴と問題点を知るため実態調査の実施を計画した。しかしながら、新型コロナウィルス感染拡大の長期化に伴い対面での実態調査が不可能となったため、保護者への口腔形態・機能に関して「難治性小児消化器疾患を有する小児の歯科受診実態調査」とするアンケート調査を先行させることとした。また、口腔機能評価の方法や標準値の作成について定型発達児を中心とした調査を開始した。

A．研究目的

希少難治性慢性消化器疾患に罹患している小児、移行期、成人期の患者の歯科受診の実態を明らかにする。

B．研究方法

1) 共同研究機関である九州大学小児外科学分野とのミーティングを重ね、調査実施方法等の打ち合わせを行い、アンケート調査を開始した。
2) 口腔機能評価法の確立：構音機能に着目した口腔機能評価法の確立を目的として、6歳～12歳までの男女70名の定型発達児を対象として①両唇音構音時の口唇閉鎖の有無、②歯間化構音の有無について調査した。

（倫理面への配慮）

本調査は、福岡歯科大学研究倫理審査委員会の承認のもと実施された（許可番号第542号および第562号）

C．研究結果

1) 保護者に対するアンケート調査については、現在進行中である。外来受診にあわせてアンケートに協力をお願いする方法では、診療時間が長くなるなどの不便があり、調査方法について引き続き検討を行い、高い回収率を目指す予定である。
2) ①両唇音構音時の口唇閉鎖の有無：30名（42.9%）の児に両唇音構音時の口唇閉鎖が観察されなかった。
   ②歯間化構音の有無：36名（51.4%）の児に歯間化構音が観察された。

D．考察

口腔実態調査：対象となる患者は、福岡歯科大学医科歯科総合病院への通院はないため、共同研究施設である九州大学へ通院する患児の来院に合わせてこちらから出向する形で調査を行う予定である。新型コロナウィルスに対する研究機関の対応に応じて、調査を開始する予定である。保護者に対するアンケート調査については、アンケート用紙の郵送を含め調査方法を再検討していく予定である。口腔機能評価については、構音機能に着目した機能評価方法を設定し、評価基準の作成を試みている。さらに被験者を増やす予定である。

E．結論

本研究については、今後も調査を継続していく。

F．研究発表

1．論文発表

1) 田口智章，永田公二，岡　暁子：希少難治性慢性消化器疾患の移行支援総論．小児科診療，2022(2) 273-280

2．　学会発表

1)　「口腔習癖をもつ小児における構音中の口唇および舌の動きの観察」第46回日本口蓋裂学会　2022年５月

2)　「口腔機能発達不全症へのアプローチ」令和４年度福岡県歯科医学会シンポジウム　2022年８月

Ｇ．知的財産権の出願・登録状況

1．特許取得　なし

2．実用新案登録　なし

3．その他　なし